

次世代の党 松沢 成文

○松沢成文君 次世代の党の松沢成文でございます。

まずもって遠藤大臣、この度はオリパラ担当大臣御就任おめでとうございます。同じラグビーを愛する同志として、心からお祝いを申し上げたいと思います。

さて、まず最初に、今日はオリパラ問題の質疑でもありますので、私としましては、オリンピックに向けてのたばこ対策を取り上げていけないといけないというふうに思っております。

実は、前大臣の下村大臣が、オリパラ担当大臣の最後にすばらしい仕事をしていただきました。私は感激をしております。皆さんにペーパー配っておりますので、見てください。

「二〇二〇年に向けた受動喫煙防止対策の推進に係る要請」、つまりは、I O CやWHOはスモークフリーオリンピック、たばこの煙のないオリンピックを目指している、しっかりと日本もやっていかなければいけないと。過去のオリンピックの開催都市もみんなこの改革をやっているんだ、東京も、日本も是非とも実現するために、下村オリパラ担当大臣から塩崎厚生労働大臣に向けてしっかりやってほしいと。具体的に、選手村の建物内の禁煙等及び東京都内のみならず各地における競技会場において受動喫煙防止を講ずるための必要な措置の検討に御協力いただきたい、二つ目に、これ重要なんです、幅広い公共の場における受動喫煙防止対策の強化について、立法措置も含めて積極的な対応をお願いしたいということなんです。具体的ですよ。

この受動喫煙防止法を作れと、それも、立法措置も含めて積極的な対応、これ、WHOもI O Cも求めているのは罰則付きの強制力のある法律ということなんです。実は日本も、健康増進法二十五条で事業者の受動喫煙防止の努力義務というのはもう法律であるんですね。でも、努力義務ですから誰も守らない。ですから、きちっと罰則も付けて強制力のある法律を作ってほしい、これを当時のオリパラ担当大臣から厚生労働大臣に申し入れたわけなんです。

当然、後継の遠藤大臣もこの方針を継承していただけますねという質問と、それから、オリンピックまでにはもうあと四年しかありません。こういう法律は利害関係者がすごく多くて、物すごく作るの大変なんです。私、神奈川県知事として受動喫煙防止条例作るのに三年掛

かりましたから。たばこ産業の方々、あるいは関係する飲食業の方々、娯楽産業の方々、たばこの規制が強まると困る方々は猛烈に反対しますから。ですから、すぐに動かなきゃもう間に合いません、オリンピックまでに。じゃ、この方針を受けて、すぐに取り組んでくださる、最大限の努力をすると私に約束をしていただけますでしょうか。

○国務大臣（遠藤利明君） まずは、御祝意ありがとうございました。

今委員御指摘の受動喫煙防止対策は、健康寿命を延ばす、また二〇二〇年大会の成功に向けたおもてなしの環境をつくる観点からも大変重要であると認識をしております。二〇二〇年東京大会における受動喫煙防止対策についてはIOCからも積極的な対応を求められているところであり、二〇二〇年に向けた受動喫煙防止対策の推進について、六月二十二日に下村大臣が塩崎厚生労働大臣に要請を行ったと承知をしております。

私としては、本件について下村大臣から事務引継を受けておりますので、しっかりと継承してまいります。なお、その六月二十二日にそうした形で要請をされておりますので、今委員御指摘のように、私も、下村大臣を引き継ぎ、厚生省にしっかりと協力してまいりたいと思います。

○松沢成文君 私との約束というよりも国民との約束ですね。よろしくお願いいたします。

さて次に、私は今日、遠藤大臣と同じラグビーをやっていた同志として、ラグビーワールドカップの問題と国立競技場の問題について少し議論をしていきたいというふうに思っています。

まず、遠藤大臣、東京オリパラ大会を新国立競技場で行うということは招致活動での国際公約であったと、私もそう認識しています、東京オリパラ大会を新国立でやるということは。一方、ラグビーのワールドカップの日本招致活動では、当時、新国立の話はなかったわけですから、新国立で行うということは招致のときの国際公約ではないですよね。確認をしたいと思います。

○国務大臣（遠藤利明君） 御指摘のように、ラグビーワールドカップの招致は新国立競技場の新設を前提として行われたものではないと認識しております。

○松沢成文君 私、この前の文部科学委員会でも申し上げましたが、二〇〇九年だったと思います、招致活動をやったのは。そのとき私、神奈川県知事でした。横浜市長と私とラグビー協会の皆さんと会合を持ちました。そのときに、ラグビー協会の皆さんは、ラグビーのワー

ルドカップを是非とも日本に招致したい、については、今の古い国立競技場は六万弱しか入らない、だから、やっぱり決勝、準決勝、大きな大会は横浜日産スタジアムでやってもらうことになると思うよ、だから、松沢知事、中田市長、御理解くださいと、少し改修も必要ですけどね、そのように言われたぐらいなんです。ですから、ある意味で、ラグビー協会としても、横浜日産スタジアムは十分決勝ができる、こういうスタジアムだという認識は当時からあったんですよ。

さあ、まず端的に方向性を伺いますが、ラグビーワールドカップは、メイン会場として新国立を使わなくても、代替施設での開催は私は十分可能だと思うんですが、大臣の見解はいかがでしょう。

○国務大臣（遠藤利明君） お答えいたします。

東京大会における円滑な運営を確保するためには、メインスタジアムである新国立競技場においてあらかじめ大規模な国際スポーツ大会を開催することが重要であると考えております。

また、平成二十六年十月には、東京都が国立競技場を試合会場とする計画で二〇一九年ラグビーワールドカップの国内での開催都市に立候補し、本年三月、ラグビーワールドカップリミテッドの理事会において開催都市十二会場が決定された際、国立競技場での決勝戦及び開幕戦の開催も決定されたところであります。

その後、大会組織委員会と東京都は、国立競技場を試合会場とすることを前提に開催のための契約を締結しており、政府としても、ラグビーワールドカップ二〇一九に間に合うよう新国立競技場を完成させる必要があると考えております。

○松沢成文君 新国立を造った経緯の中で、その後、ラグビーのワールドカップももう招致が決まっているんだから、いろんなどころと話し合いをして契約をしたりしながらここまで来ているんですということですよ。ただ、今の答弁が、じゃ絶対に代替施設ではできないということにはなっていないんですよ。

それで、まず、ラグビーのワールドカップで新国立を使わないとなると、恐らく十か月ぐらいの期間的な猶予ができます。もちろんその前にプレ五輪をやらなきゃいけないとか、いろんなのがあるのかもしれませんが。この十か月、オリンピックまでの工期が延びることによって、そこで、設計からやり直して今とは違う新国立のスタジアムを造るというのは、この前の下村大臣の答弁では、それはもう六十一か月掛かるから無理なんだというふうにおっしゃっていました。

じゃ、それはもう政府の決定事項ですね。もうそれは無理だから今

の案でいくしかないんだと、それは政府としての決定と見ていいんですか。

○国務大臣（下村博文君） 御指摘のように、仮にラグビーワールドカップ二〇一九の開幕戦、決勝戦を別会場にして最初から手続をやり直した場合、設計開始から竣工まで六十一か月、五年一か月、つまり、今月から起算すると二〇二〇年七月末まで掛かるということになります。

このメインスタジアムの実施競技であるサッカーや陸上競技のテストマッチもしなければならぬということになっておりますが、これに間に合わないということだけでなく、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会にも間に合わなくなるリスクがあるということでもあります。

○松沢成文君 そうなると、今のままの設計で進めていくしかないというのが政府の今の考えですよね。これを今その設計からやり直せと言っても押し問答になってしまうので、私はちょっと次に行きますけれども。

じゃ、今度、ラグビーワールドカップを代替施設で開催できれば現行案でも新国立建設に向けての工期が十か月近く余裕ができるわけですから、今の案でも、ザハ・ハディドさんのデザインの案で強行したとしても、そこでは十か月近い余裕ができるわけですから、まず工事費も節減されて、この完成後の運営収益の増加というんですか、逸失利益ですよね、この減少にもつながるのではないんでしょうか。ここはどうお考えでしょう。

○国務大臣（下村博文君） ラグビーワールドカップ、これは松沢委員も実際ラグビーをされていたということでもよく御存じだと思いますが、日本人はそれほど実は意識してはいないんですが、世界三大スポーツイベントであって、オリンピック・パラリンピック、それからラグビー、ワールドカップのサッカー、それに比較しても十分世界の中で大きなイベントとして通用するという、そういうものが初めて日本で開催されると。これは、我が国におけるスポーツ振興、それからスポーツビジネスの発展にもつながり、スポーツ立国の実現に大きく貢献するというので、大変なインパクト、このラグビーワールドカップもオリンピック・パラリンピックと同様にあると思います。

このような世界的なイベントの決勝戦、開幕戦の試合を変更することになりますと、国際スポーツ界における我が国の信用を著しく損ない、ひいてはスポーツ基本法に定める国際競技大会の円滑な招

致、開催を困難にすることも想定をされることだと思います。そのようなことから、御指摘のような代替施設での開催は考えられないというふうに思います。

○松沢成文君 大臣、今の計画では、屋根ですよね、開閉式の屋根、あと常設の電動式可動席、それから天然芝の育成装置などは間に合わないからオリンピックの後に再工事する。その場合、その工事費と工期はどれぐらいになるのか、先ほどの議論も出ていましたけれども、再確認です。

それから、ラグビーワールドカップのメイン会場を他施設に移して、もし東京オリパラまでにフルスペックの、さっき言った屋根もできて、可動席も電動でできて、芝の育成装置もできて、このフルスペックの新国立が建設できるとしたら、その全体工事費はどれぐらいと予測されるのでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） 二〇二〇東京オリンピック・パラリンピック競技大会後に行う予定の工事費については契約締結の段階で定まるということとなりますが、新競技場の建設費として設計者が試算した金額のうち、開閉式遮音装置が百六十八億円、芝育成補助システムが六億円、東西面のガラスカーテンウォールが十四億円、この整備に要する費用に相当する額の合計は百八十八億円というふうに聞いております。

これらの工事期間については、実際に工事を行う時点での施工工事によって変わるため、現段階での算定は困難というふうに聞いております。

また、可動式につきましては、電動式でなく簡易着脱方式で、ラグビーワールドカップ開幕までに整備する予定であります。そういうことで、今後、詳細設計を行うというふうに聞いております。

これらの二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了後に整備する予定のものも含めてフルスペックでの整備する場合の目標工事費につきましては、J S Cがその条件で施工予定者と交渉を行っていないということで、お答えすることは困難でございます。

○松沢成文君 今三つの屋根と可動席と芝生の育成システム、これオリンピックまでに間に合わないから抜いて二千五百二十億ですよ。こういうものをオリンピックが終わった後にまた造り直すとしたら、これ、屋根いじるとしたってまた足場から全部組まなきゃいけませんから、大変な工事費になりますよね。これは恐らく一年以上は絶対掛かると思いますし、その合計が今、設計段階で百八十八億ぐらいだろ

うと。でも、私は、その後の工事費全体では五百億に近くなるというふうに思っています。

そうしますと、今、二千五百二十億円でも国民にとっては何でこんなにお金が掛かるんだと。ラグビーのワールドカップを代替してもらえるかもしれない横浜日産スタジアム、七万二千人入りますよ。あれ、六百億ですからね。ですから、あれが五つできちゃうわけです、国立一つ造るのに。ここまで膨大なお金になっちゃうんです。それも、工事を後からまた付け足してやりますから、それ全部入れると三千億プロジェクトですよ。これはどう見ても国民の理解を私は得られないと思っているんですね。

ですから、この工事費を少しでも減らすために、ラグビーのワールドカップは代替施設に譲って、そして、そこで約一年、もうちょっと短いかもしれませんが、空く期間にフルスペックのものを造り上げれば、三千億よりは何百億か必ず安くなるんですね。そういう、これはベストだと思いませんけれども、少しでも国民に理解を得られるような、きちっと建設計画に今政治の責任で変えられるんです。是非とも再検討をお願いしたいと思います。

さて、遠藤大臣、大臣も私も一緒にラグビーの国会のチームで時々パス投げていますよね。ですから、ラグビーのグラウンドについても詳しいと思うんですが、実は、屋根に覆われている、特に全天候型というのは日照の問題がまず出てきちゃう、日が差しにくいですね。それから、屋根に覆われているということは、壁にも覆われていますから、通風が悪いんです、通気が悪い。こういう様々な厳しい条件があって、こういうスタジアムは芝の張り付きが非常に悪い。それで大きなトラブルになったということで、これまで何度もあるんです。

まず、恐らく大臣、私と一緒に、私、衆議院の頃、ロンドンに視察に行っていますよね、一九九九年のウェールズを中心とするイギリスでのワールドカップ。あのときにウェールズは、二〇〇〇年記念でミレニアム・スタジアムというのを造ったんです。これ、全天候型だから屋根付きです。でも、雨も多い地域なのでかなり屋根を閉じていた。芝生の育成が悪くて、ワールドカップ始まったら、ラグビーというのはやっぱり芝をきちっとかませますからね、スクラムのときとかタックルのときに。もうそれがどんどん芝が剥がれちゃって、選手からは総スカンだったんです。せっかくミレニアム・スタジアムを造っても芝の張り付きが悪い、ようやくスタジアムは間に合ったけれども芝がめちゃくちゃな状況だ、これでワールドカップやらせるのか、総スカ

ンですよ。

日本にもあるんです、大分銀行ドーム。大分何とかというチームの、どこだっけ、のホームスタジアムですが、ここ、全天候性で屋根付いているんですよ。やっぱりこれ、屋根付いているから、天然芝は日照が悪い、通気が悪い。通気するために扇風機何台も用意しているんですから、めちゃくちゃお金掛かっちゃっている。それで、できた後は、Jリーグの試合やると、これまた総スキャン。もう芝がばんばんばんばん剥がれちゃって足が利かないわけです。

ですから、事ほどさように、天然芝をきちっと育成して、アスリートファースト、選手たちに最高の条件のグラウンドを用意するのは難しいんです。新設のスタジアムは、それ、ことごとく失敗しているんですよ。

じゃ、無理して今回ラグビーのワールドカップを新国立で、できたばかりの新国立でやる。日照も悪い、通気も悪い、芝生の育成装置は後回しですからね。そうしたら、芝がぐじゃぐじゃで、全くラグビーの試合としてはコンディションはよろしくない。私は、ラグビーのワールドカップが成功できない、アスリートファーストに大きく逆行するんじゃないかと思います。

それから、先ほど出ていたサブトラックの問題もあるんです。横浜でしたらサブトラックがありますけれども、その中のフィールドも、天然芝のフィールドが外に用意されています。そこでチームは練習してスタジアムに入って試合をするわけですね。陸上だけじゃないんです、あのサブトラックが必要なのは。ラグビーのワールドカップにも必要です。じゃ、今度のラグビーのワールドカップ、新国立でやる場合に天然の芝のサブフィールドが用意されているのか。無理でしょう。

そういう意味でも、無理してラグビーのワールドカップを新国立でやることは、アスリートファーストの精神にも全く逆行するんです。芝も完成形のものでできていない、サブフィールド、練習フィールドもない、何でそれで無理して新国立でやらなきゃいけないのか。新国立で無理してやるから次のオリンピックまでしわ寄せが全部行って困っちゃっているわけでしょう。

さあ、ラグビーをやっていた大臣、芝の問題、サブフィールドの問題、アスリートファーストになっていません。どうでしょうか。

○国務大臣（遠藤利明君） お答えいたします。

新国立競技場の芝の御懸念ですが、文部科学省から、暑さに強い暖地型芝生を、芝草を導入すると、あるいはグローイングライト、人工

促成照明や大型送風装置を活用し、小まめな芝の手入れをする予定との説明を受けており、計画では、ラグビーワールドカップの開催に支障は生じないと認識をしております。

御指摘のように、開催に当たって良質の天然芝が提供できないような事態は可能な限り避けるべきとの考えであり、今後、新国立競技場の建設について進捗管理を行う際には、御指摘の点も踏まえてしっかりと対応してまいります。

○松沢成文君 大臣、それ、文部科学省の役人が書いた説明をここで読むんじゃなくて、私、是非ともお勧めするんですが、大分の大分銀行ドーム、視察に行ってみてください。あそこの芝を管理している責任者に、最初のうちどういうトラブルがあったか、一度是非とも視察、取材をしてください。できれば、ミレニアム・スタジアムも、ちょっと遠いですがけれども、行って見ていただくと、もう本当に天然の芝というのはドームの競技場では育ちにくいんです。非常に難しいんです。それを無理してやると選手から総スカンになって大会の評価が落ちる、これみんな経験しているんですよ。そこをきちっと調べていただくのが私は遠藤大臣の大臣たる所だと思いますので、よろしくお願ひします。

もう一点。このラグビーのオープニングゲームと決勝戦を新国立で実施するという事については、先ほどの御説明ありました国内の大会組織委員会と東京都の契約、そしてラグビーワールドカップリミテッド理事会の承認という手続を経ているから変えられないんだという言い方していましたが、これらは日本側の状況の変化によって、きちっと申出をして説明をすれば御了解いただくことは十分に可能だと思うんですが、いかがお考えでしょうか。

○国務大臣（遠藤利明君） お答えいたします。

現時点において、日本の組織委員会、東京都、ラグビーワールドカップリミテッド、いずれもが新国立競技場でのラグビーワールドカップ開催を前提として必要な準備を取り組んでいるところであります。

文部科学省においては、新国立競技場は二〇一九年春に確実に完成することができるとして現行計画での建設を決定し契約を行っているところであり、このことを踏まえれば、御指摘のような日本側の状況の変化により契約変更を申し出る状況にはなっていないと認識をしております。

○松沢成文君 こういう予測はしたくないですけども、例えば大地震が関東を襲ったと。そうしたら少なくとも工事は、それまでの耐震

なんか大丈夫かチェックしなきゃいけませんから、三か月、四か月中断になることもありますよ。これからの四年間の間にそれがないとは言えませんよね。ですから、工期というのは少し余裕を見なければ、私は万が一のときに大変だと思います。

それから、ラグビーでも、会場の変更の前例があるんですね。二〇一一年のニュージーランド大会で、当初予定されていたクライストチャーチのスタジアム、これが、クライストチャーチ、地震がありましたね。これで被災をしたので別の開催都市の試合会場に変更した。これ、事情の変更による会場の変更なんです。十分可能です。

新国立競技場、もしかしたら間に合わない大変な迷惑を掛けるので、やはり我々日本のラグビー協会としては、あるいは日本政府としては、東京都としては、ここは代替施設、横浜にやってもらう、きちっとそれでワールドカップの決勝をやれますよと。だって、サッカーのワールドカップの決勝もやっているんですから、サッカーの方がよっぽど動員力ありますからね。これは十分事情の変更なんですよ。

それから、契約書を私、調べました。契約書の中にこう書いてあるんです。不測の事態が発生した場合には代替会場を確保すると書いてある、ちゃんと。これこそ不測の事態じゃないですか、東京オリンピックのために新国立競技場を造るのにここまでもめているんですから。工期も怪しくなってきた、工事費はどんどん高騰して国民から総スカンを食らっている、もう異常事態ですよ。これを正直に言って、大会の会場の変更手続をすればいいじゃないですか。大臣、いかがですか。

○国務大臣（遠藤利明君） ニュージーランドにおいてそういうことがあったことは承知をしておりますし、あ那时的地震でとても施設が使えないということも事実だったと思います。

ただ、今文部科学省において、二〇一九年春に確実に完成ができると、そして現行計画での建設を決定し契約を行っているところでありますので、そのことを踏まえれば今の状況で、日本側の状況の変化によって契約変更を申し出る状況にはなっていないと認識をしております。

○松沢成文君 いや、もう一刻も早くこれ変更を申し出た方が私はいと思いますよ。

私は、下村大臣にこの前の委員会で、二兎を追う者は一兎をも得ず、こういう言葉御存じですかと、文科大臣に聞くのは僭越ですけども、今、国立競技場建設で、とにかくオリンピックも新しい国立競技場で成功させたい、一年前にあるラグビーも成功させたい、この両方を成

功させたいから何が何でも、工事費が高くなろうと、工期がちょっと危なかろうと、その後の運営がどうなろうと、とにかく造るんだと突っ込んでいるわけですよ。こうやって二兎を追って、両方とも満足できる形で開催できずに失敗してしまった。このとき、大臣、誰が責任取るんですか。両大臣は、四年後、まだ大臣の座にあるんでしょうか。総理だって分からないですよ。だから、こんなに危険な状況だったら、ここで政治決断するしかないですよ。ここが政治家の役割ですよ。それは文科省の官僚やJSCの官僚に、かわいそうですよ、トップがかじ切ってくれないから玉砕するしかないんですから。

いや、私、あえてちょっと政治的な発言しますが、森喜朗組織委員会会長、私は、スポーツ界への貢献も長い間やられてきて、素晴らしい方だと思います。と思いますが、やはりラグビー協会の会長として長い間やってきた、今年替わりましたけどね。それから、オリンピック組織委員会の会長としてしっかりとリーダーシップを取ってこられたんでしょう。ただ、こういう権力の座に長い間ずっといるから、森さんにいさめる人、進言をする人が誰もいなくなっちゃったんですよ。それが今のスポーツ界の最大の危機です。

私は、本当に驚いたのは、この前の七月の七日、国立競技場将来構想有識者会議というのがあった。それ中身全部聞きました、いろんな取材をしていた人に。誰一人、森さんがいるから、こんな計画まずいんじゃないか、もう一回考えるべきじゃないかときちっと言える人いません。遠藤大臣もなかなか言えないのかもしれない。あるいはJOCの竹田会長も何も言えません。

皆さん、是非ともここは両大臣にやっぱり政治的にきちっと決断をしていただいて、これまで頑張ってこられた森会長にもきちっと今の状況は非常に危険だということを説明して、そして安倍総理やあるいは都知事も一緒にいいじゃないですか、五人で徹底して議論して政治決断をしてください。そうしないと、ラグビーのワールドカップもうまくいかなかった、オリンピックもうまくいかなかった、後に残ったのはもう膨大な負の遺産だけだった、こういうことになりかねませんよ。

私は、そういうことを決断するのが政治家の責務だと思っています。政治家の役割だと思っています。それは文科省の役人の皆さんには決断できません。お二人なんです。是非ともここは、きちっと森会長や安倍総理とも話し合っていたきたい。政治決断を求めたいと思うんですが、大臣、お考えはいかがでしょうか。

○国務大臣（遠藤利明君） 松沢委員から大変示唆に富むいろんな御意見をいただきました。

ただ、先ほど責任という話がありましたが、二兎を得る者一兎を得ずということがあると、何としても二兎を得ていきたいと、その努力をしていきたいと思っております。

○松沢成文君 いや、それが政治の長い間権力にいる人たちの一番悪いところで、自分が正義になっちゃっているんです。ほかのやつには分からないだろうと、この難しいこと。俺らがやっていることが一番正しいんだとって、周りのスタッフの意見にも耳を貸さない。スタッフも怖くて言えませんか。国民がこれだけおかしいんじゃないか、もう一回考え直した方がいいんじゃないかと言っても、いやいや違うと。自分が正義になっちゃうんですね。

私は、そういうふうになっているんじゃないかと本当に危惧をしております。遠藤大臣の初めての仕事がすばらしい政治決断であることを願って、そしてラグビーのワールドカップと東京オリンピックがその決断によって救われることを願って、質問を終わります。

ありがとうございました。